地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援をゆっくり・じっくり・しっかりとさせて頂く、という独自の理念を念頭に、地域へ情報発信しながら地域で支える街づくりに貢献していくことも盛り込んでいる。		理念と実践が結びつくよう、引き続き日常の支援の場面を捉えて振り返りを行う。新人職員へは研修日誌や毎日のミーティングを通してじっくりと行いたい
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	オリエンテーションや新人研修の他,勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場を持ったり、日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	入居者の方々の生活の場において、細かくOJTしていくことは困難だが、ケアさせていただく事に対しておそれを抱く事や、もっと日常でのケアプランの作成の場面をとらえて伝えていく必要がある。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議、地域行事への参加、ささやかカレーの店、子供達との交流等の取り組みやふぁみりえ通信を発信することで理解してもらえるよう取り組んでいる。地域ネットワーク活動にも常に入居者の皆さんと参加し、日頃から交流を通して認知症の人の理解や支援が深まるように働きかけている	○	家族や地域との交流を通して、更なる理念の浸透に努めると共に、家族や地域へ情報発信し続けていく。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄って頂く場として、きてみてテラスを開放している。また、より日常的な事として、散歩に出掛けた折などには入居者と共に挨拶を積極的に行っている。	○	もっと多くの方と触れ合えるよう工夫を行っていくと共に、馴染みの関係になれるよう努めていきたい。
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	はやめ南人情ネットワークを通して地域住民との交流の機会を得て出かけていったり、老人クラブ主催のふれあい祭りの場の提供、実行委員としての参加、地域の清掃活動、小・中学校の行事など積極的に参加している。近所の保育園からの訪問など交流の回数は増えている。	○	小・中学校側から誘って頂けるようになり、大変うれしい。現状に満足せず、またなぁなぁにならぬよう、しっかりと取り組んでいきたい。また、地域との繋がりが日常的になるよう支援していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や、地域推進会議の開催、絵本教室などの取り組みを行なっている。地域交流センターを利用し、「カレーの店」「赤ちゃん＆ママの会」などを行っている。また、駿馬南人情ネットワークの事務局として地域の一員として入り、地域高齢者の誰もが安心して暮らせる町づくりが出来るよう情報交換をしながら模索している。	○	自分の住む地域において何が必要とされているのか、常に意識しておくことで自ずと見えてくるとの、アドバイスを頂いた。具体的にはまだ見えてこないが、意識してゆきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じて、改めて話し合うことで、意識の統一・サービス向上・見直し改善の一つの機会になっている。また、「ふぁみりえ」としての活動内容を、新入社員を含めて共有でき、新しい考え方などを取り入れる機会にもなっている。	○	改善に向けて取り組んでいるものの、時間と共に薄れていってしまっている部分がある。継続的に取り組む必要があると感じている。
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーや入居者ご本人・スタッフを交え、毎回これまで活動した内容や今後取り組んでいきたい事柄について、報告を行った上、ご意見・ご提案頂いき活かしている。	○	運営推進会議の重要性を、新スタッフへも周知し、全スタッフ・入居者で取り組んでいきたい。又、年間計画をたて、ご意見等を活かしていくようにしたい。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしん会議相談員や市役所からの研修を受け入れるなどし、ありのままの状態を見ていただく中で、ご意見いただいている。市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また、市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている。		
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設全体で身体拘束廃止委員会の一環として、権利擁護に関する勉強会をしたり、地域包括支援センターとの連携により、新人教育や現任教育の中で、日々の権利擁護及び成年後見制度の学習をしている。また該当者の支援を通して、理解を深めている。	○	勉強会の機会・職員の理解共に十分とはいえない。徐々にニーズも高くなっていく為、活用のサポートができるよう家族会などでも勉強会をもち知識を正しく整理して深めてゆきたい。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ｻﾝﾌﾚﾝｽﾞ全体として、身体拘束廃止委員会を設置し、他部署への訪問を行うなど防止に努めている。また、勉強会やｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ協議会での勉強会にも参加し、各職員も何が虐待にあたるのか勉強している。業務中に疑問が持ち上がった際にはお互いに注意しあい、防止に努めている。	○	日々のケアの中で、無意識にでも行っていないか、小さな事でも気付いたら話し合いを持ち言動や行動について虐待の可能性がないか再確認をし、もっと意識を高めていく機会を増やす必要がある。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、ホーム長・管理者が中心となり、十分に時間をかけ説明、理解・納得を図っている。その後も随時補足・説明、相談に応じ、理解が深まるよう対応をとっている。また、退去された場合でも、退去先や入院後のフォローアップなど対応している。		
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で出たご意見やご希望に関して、傾聴を行い管理者へ報告したり、カンファレンスを開いて話し合い、職員間で意識統一を図り、ケアに反映させるべき努力をしている。また、あんしん介護相談員を受け入れ、入居者が第三者へ相談できるようにしている。	○	日々変化する入居者の願いや思い、表面にでない意向についてもくみ取っていけるよう、努力している。また、センター方式(C-1-2) を活用していく事も有効であると考えている。。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や定期送付している通信を通して報告したり、メール・電話・来家時に報告することで、家族との信頼関係を築いている。また、来家時には、ご家族からもご意見・ご提案いただけるようアプローチし、家族と共に支えられるよう努めている。家族会においては、異動の理由や職員体制の課題についても報告し意見を頂いたりしている	○	なかなか来家されず、家族会にも参加されない家族には、特に気がけて入居者の最近の様子の写真を添えて手紙にて報告をするようにしていきたい。ご家族から「そこまで近況を知らせてもらわなくても結構です。」と言って頂ける程に、普段から積極的にメールや電話を通して連絡し、一層の信頼関係を築いていきたい。
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会にご出席頂き、意見を頂戴している。その内容については、出席頂けなかった方にも見てもらえるように文書に記録し、玄関前の棚に置き自由に閲覧できるようにしている。家族会においては身近な職員に気軽に話せるようにﾕﾆｯﾄごとのグループトーク形式にしたり、昼食会時に個別に時間をつくるなどしている。また運営推進会議との合同の場を設け、第3者と気軽に話せる場作りをしている。	○	ご家族からは、なかなか言い出せない部分があるので、個別に時間を作り、フォローしている取組みを継続していきたい。
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	様々な会議の場において、意見交換の場を設けている。上司の意見が絶対ではなく、意見を交わせる雰囲気を作る努力をしている。また、会議以外でも、日常的にしょくいんかんでのコミュニケーションが取れるよう努力している。	○	運営者・管理者だけに留まらず、職員間においてもより一層コミュニケーションを図り、普段から気軽に意見できる雰囲気作りを図っていく。
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院の受診や旅行、冠婚葬祭などや、入居者や家族の状況変化・要望など、必要な時間帯に応じた勤務体制や勤務調整を行っている。	○	常に十分とはいえない。適切な職員配置やﾕﾆｯﾄ缶の応援体制等充実につとめたい。また、人数だけでなく、質的な確保も含めた取り組みが必要である。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ﾕﾆｯﾄ制をとり入居者となじみの関係が作りやすく、且つダメージが少ないようにしている。他ﾕﾆｯﾄからの応援を取ることで、他ﾕﾆｯﾄｽﾀｯﾌとも顔見知りになれるようにしている。ローテーション時や退職時に関しても、入居者に花束を渡していただく等、きちんと挨拶できるよう配慮している。	○	職員の確保が難しく、移動の必要性が多様化している。なかでも、突発的な職員の退職に関して、担当の入居者・家族への対応をきめ細かくしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	常に人権の尊重や公平性を意識し採用に当たっている。また、個々の性格･特徴･特技にも目を向け、専門性や人と人との関係性などを考慮している。誰もが生き生きとしている、と感じて頂ける職場作りを心掛けており、そのようなお言葉も頂いている。職員がただ働くというばかりではなく、社会参加や自己実現をはかれるような機会作りや動機付けを重視している。		
20	**○人権教育･啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	全体会議において、現在の運営状況などのきめ細かい報告があり、職場を支える者として尊重されている事を自覚している。それは、自己研鑽･人格の啓発意欲を高め、さらにこの事が入居者に対してより高い意識を持って、尊重し接する事へとつながっている。また、法人全体として、人権･ノーマリゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力をいれている。		
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、実践者リーダー研修･東翔会リーダー研修などやグループホーム協議会(ブロック研修)、安心介護相談員意見交換会を通して、長期的･計画的に取り組み、自己研鑽に努めている。又、年に1回のデンマーク研修派遣は中でも特徴的である。	○	より多くの視点を持ってケアに当たれるよう、個々の職員に様々な研修への参加を年間計画を立て、促していきたい。
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症ケア研究会主催の研修や勉強会、大牟田市サービス事業所実践報告会、大牟田市認知症ケアコーディネーター養成講座等に参加することにより意見交換する場や学ぶ機会を作っており、互いに気付きあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。実習や研修を受け入れることで、自己研鑽が出来、意見交換の場や学びをもらっている。また、はやめ人情ネットワークや徘徊ネットワークと通しても、地域の同業者との協働が得られている。	○	法人内のグループホームとの交流を深めていきたい。
23	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新人教育のほか、研修日誌を通して職員の気付きや悩み、不安などを察知し、コミュニケーションを図っている。ストレスがたまりがちなケアの現場で、出来ないことを出来ないままで終わらせず、常にどうすれば解決できるのか話し合う場を持って取り組んでいる。時に場所を変えて職員間の親睦を図る機会を作ったり、食事や遊びを通して気軽に話せる相手が出来るようなチーム作りを心掛けている。また管理者やリーダーと情報交換を密にし、不安を抱えている職員の変化を見逃さないように努めている。	○	専門分野の講師を招いて職員のストレスケアに関する研修の機会をつくりたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1～2回自己点検表をつけてもらい管理者や職員の職務実績や実践課題等の把握に努めている。勉強会や施設内の委員会や実行委員への推薦、資格取得、学会での事例発表等、さまざまな機会をとらえて向上心が持てるような職場環境、研修の場を提供している。	○	職員の向上心の源はさまざまであると思うが、根本は、理念の具現化、実践、チームケアによる「心ふるわす成功体験」や「入居者からの人生の学びを共有できること」ではないかと思う。煩雑なまた決して給与面で十分な評価ではない中で、個々の職員のやりがい感、ケアへの姿勢を育てていけるよう、また向上心を持った職員が多様な研修に参加できるように整備していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	馴染みの関係を作る為に、自宅訪問・体験利用や通所を行い、本人との交流を図っている。本人とじっくり向き合いながら、訴えを受け止め、C-1-2に情報を落とし、職員間にて共有する。他にも、生活史質問ﾘｽﾄや人生史を活用し、出来るだけ本人理解の為の情報収集を行っている。		
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階からご家族と接する時間をより多く持ち、意向など伺っている。また、入居前にはお宅訪問を行い、ご家族との暮らしのあり方を教えていただくと共に、利用者の姿・嗜好を伺っている。		
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が十分に話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズの検討を行うと共に、職員間でもケアカンファレンスを行い、ご本人の要望に沿ったサービスの提供ができるように努めている。		
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前には、ご利用者・ご家族共に、段階を踏んで来家して頂き、馴染みの関係が出来る様配慮している。また、本人のペースに合わせて、体験利用やディ、泊まりの利用を行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が支えているのではなく、入居者の方々が職員に対して気遣い、心配りをして下さっている事に気付く事で、一緒に過ごし、話をし、分からないことは教わるという姿勢で接することができている。理念に基づき、入居者対職員という関係ではなく、人対人の関係性を持って、共に生活している。	○	ケアをする場面においては、入居者が職員に対して「あなたになら、仕方がないけど任せる。」と認めて頂ける、そのような信頼関係を築くと共に、良かれと思って職員が行う事が、本人の力を奪う事もあると十分認識し、力や願いを引き出しながら、支えあう関係を築いていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話やメールを通して、近況報告と相談、意見を伺っている。　また、来家された折に現在の入居者の現状をお伝えすると共に、直に知っていただき、相談や伺いを立てている。 来家して頂くきっかけ作りとして、家族会や運営推進会議に御出席頂けるように呼びかけている。そうして、家族も交えて行事を企画したり、食事を共にする機会をもうけている。	○	御家族等がもっと気軽に、来家されたり連絡を頂けるような関係を作り、ご家族と共にケアに当たれるよう、パートナーシップを深めていきたい。
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来家時に写真を取らせていただき、居室に飾ったり、旅行や外出など、ご家族も一緒に行動できる機会を設け、時間の共有・思い出作りを行っている。また、来家の際には、周囲に気兼ねせず過ごせる様、空間に配慮している。症状の進行や変化をとらえ、どのような時期にあっても、お互いの絆が深まるよう努めている。		
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、手紙や電話の支援、美容室の利用や馴染みの場所への外出など、できるだけ馴染みの習慣が継続できるようケアプランに盛り込んでいる。	○	遠方にいらっしゃる家族や親戚・友人に対しても同様に支援していきたい。
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話や寄り合い、イベントに出演・出展のための共同活動を、お一人お一人の時々の心身状況を見極めながら、時に職員が間に入り、共にケアしあいながら行っている。また、入居者同士のいたわりの場面も多々見受けられる。	○	入居者間のトラブルが多い。誰も加害者とならぬよう、状況を見極めていく。また、状態変化に伴い、関係づくりが難しい方もおられる為、お一人お一人にあったアプローチを行い、入居者同士の関係作りをしていく必要がある。
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も情報交換を行い、家族会や運営推進会議に出席頂いたり、亡くなられた場合にも、お墓参りやホームでの法事を行わせていただき、参加を呼びかけている。	○	気軽に来家頂ける関係をこれからも保てるように努めてゆきたい。また、全ての職員が、このことの大切さを認識できるよう伝えていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活史シートなどを活用し、生活の継続に努め、対話の中からの情報を記録におとし、共有、実践し家族にも相談している。また、新たな情報・状態に対しては職員間でのカンファレンスを随時行っている。	○	本人の思いや希望は、日常の訴えや声に表れている事を意識し、センター方式C-1-2を活用しながら再確認して行く。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活史リストを作成し、適宜閲覧し日々本人理解に努めている。また、ケアマネやご家族と情報交換を行い、本人の入居前の状況などの情報を得るようにしている。	○	入居時に聞き取れなかった情報にも目を向けられるよう、家族介護教室や、親族の集まり場の際などに協力していただき、常に情報収集に努める。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方のそれまでの習慣や生活リズムができるだけ継続出来る様支援している。日々の記録、朝礼や看護師からの申し送り、職員間での会話を通し総合的に本人像の把握に努めると共に、出来ない事ではなく、出来ることに視点を向け支援している。	○	常に変化していく心身の状態にあったケアが出来るよう、チーム力を更に高めていきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のケアプランを用い、担当を中心にお一人お一人の人生・生活・習慣といったところにまで目を向け、ご家族・ご本人によりアセスメントし介護計画を作成している。	○	新職員にも、独自のケアプランシートやセンター方式の活用・理解を深めてもらえるよう、日常的に伝えていかなければならない。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化の著しい入居者については、すぐに家族等関係者に連絡を取り、話し合いをもうけて、ケアプランの見直しを図っている。日々の変化に敏感に気付くように心掛け、意見交換をし、よりベターな方法を日々のケア・プランに反映させている。	○	プラン作成・見直しの点で、新職員に対しまだまだ伝え切れていない部分がある。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、記録を確認しながら、朝礼や毎朝の寄り合いで情報の共有を図り、気掛けて共に過ごすと共に、プランの見直しに努めている。	○	常に状態変化される中、十分反映できているとはいえない。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人のニーズにこたえ、母体施設の訪看やPTによるリハビリを取り入れたりしている。また、馴染みのある方には訪問して頂いたり、ご家族が遠方から来られそのまま宿泊となっても適宜対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	駿馬南人情ネットワークや運営推進委員の方々、小中学校の生徒・先生との交流を図り病気への理解や入居者の生活を感じてもらっている。防災訓練においては、地域住民の方にも協力していただき、入居者と共に参加してもらっている。		
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態や状況に応じて、かかりつけ医などと連携を図っている。サービス移行時には先方と十分な話し合いを行い、継続してご本人の生活が維持できるように配慮し、支援を行っている。	○	本年5月より、認知症デイ施設「こころね」が開所し、さらにご本人の意向に沿ったアクティビティーができる環境が整う。その環境を活用する方向で支援していきたい。また、地域資源の活用を今後も積極的に取り入れ支援を行っていきたい。
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	財産管理や身元引受人の問題を、地域包括支援センターと連携して支援している。	○	認知症の利用者本位の支援のために、権利擁護や成年後見制度についての理解を深めたい。
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族・医師・職員を交え、意向確認してかかりつけ医を決定している。情報交換を蜜に行い、往診・受診も定期的におこなっている。		
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医による往診やカンファレンスをおこなっている。定期的に、また必要時に専門医のいる病院の受診を受けて頂いている。		
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護職員や法人内の看護職との連携を図りながら、入居者の健康管理・医療活用の支援をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医や法人内病院以外への入院時にも、看護サマリーと共に心身の情報シート等を提出し本人へのリロケーションダメージの軽減、生活習慣の継続が出来るよう情報提供をしている。互いに情報交換できるよう努めているが、連携が図りにくい医療機関もあり、そのような場合には、職員がお見舞いへ行き利用者への支援を行っている。		
49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に応じて十分に話し合いを重ね、主治医・家族を交え数回に渡って確認書を交わし共有している。また、重度化や見取り支援の指針があり、日々の暮らしの中から本人の思いや希望を汲取ると共に、重度化した場合においても、本人・家族の希望を最大限尊重しながら、限界も理解して頂き、その範囲内で希望に沿い安心して過ごして頂ける様最善をつくしている。		
50	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時からの馴染みの関係作りから知りえた情報で、ご本人が心地よく感じている部分に働きかけるように努めている。ご家族には出来ないことを明確に伝えたうえで、出来る事をしっかり・じっくり取り組んでいる。		
51	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまで移り住む方はいないが、今後そのような事態が起きれば、充分に配慮していく。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないような声掛けが全くないとは言えない。ため息や声の掛け方など、何が傷つける原因となるのか、常に意識して業務に従事するように努めている。	○	職員間での申し送りや会話の中で、プライバシーの配慮に欠ける場面が少なからずあるので、もっと意識して注意していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	問いかけや声掛けの仕方ひとつで、クローズクエスチョンになってしまう事が少なからずある。	○	現状に満足せず、職員のレベルアップに努める。
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に添えるように努力しているが、100%叶えられているとは言えない。	○	今一度、生活の主体は入居者であるということを認識し、皆さんへ自己決定・自己選択のアプローチを丁寧に行っていくよう心がける。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の方の要望を伺い、散髪に来てもらった際には、本人の望む髪型にしてもらったり、ご家族と共に行きつけの美容室に行って頂いたりしている。 身だしなみは、本人の大切なもの、ご家族の持ってこられた品、好みの色や柄、雰囲気を把握し、希望するおしゃれができるように努めている。	○	口腔・衣服・手指などが汚れた場合などにすぐに、身だしなみを整える支援にもっと力をいれたい。　外出やご家族との食事の時などには、ご本人と特に時間を掛けて、念入りに身だしなみを整え、おしゃれによって、生活にメリハリを持てるように支援している。そういう機会をもっと増やしたい。
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度、入居者の食べたい料理を召し上がっていただけるように企画している。以前の生活習慣について得た情報や料理の本を入居者と眺める事で、食べたい料理について一緒に話をしている。調理・片づけでは、入居者の残存機能や体調を伺いながら、声を掛けちょっとした事でも一緒に行っている。食卓は入居者・職員が一緒になって囲み、なるべく賑やかで、ゆったりした雰囲気で召し上がって頂けるように支援している。	○	ランチョンマットを使用しご自分が食べる物が分かるようにする等配膳の仕方を考える、最初から刻み食にしない、など個々の入居者に合わせた改善が必要だと感じている。　また、もっと空腹を感じて食卓へ付いて頂けるような、日々の生活支援を努めてゆきたい。
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の疾患や服薬との関係を職員の側で考慮しつつ、嗜好されるものを楽しめるように支援している。タバコを嗜好される方には、いつまでも安心して吸って頂けるように、職員が火の元に注意しつつ支援を続けていく。	○	飲み物を、もっとご自分で選んで頂くような状況の工夫が必要である。小腹が空かれた時に、ご本人が食べたいと言われる物を食べれるように、職員の連携で買い出し等にすぐに行けるように努めたい。
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食事の前後や、そわそわ感などの入居者の仕草で、排泄パターンを把握するよう努めている。また、ご本人に羞恥心や気持ち悪さを感じて頂かないように、把握した排泄パターンにおいても、一度の声掛けだけで、する・しないを伺い、判断するのではなく、状況・タイミングを変えて何度か声掛け支援している。排泄時間を記録し、体内の循環機能の状態や、夜間の頻尿による睡眠不足等を職員間で共有できる情報とし、生活支援をしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人に入浴したいか否かを伺い、また入浴される雰囲気作りを職員で支援している。普段入浴を好まれない方に、入浴する意思があった場合は、職員の連携でスムーズに入浴して頂けるように努めている。		
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	馴染みのものでのプライベート空間を作っている。 前夜・日中のご本人の状態を観て、また記録や申し送りを通して、休息して頂いたり、入床のタイミングを気に掛けながら支援している。物音や明るさにも注意を払っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理・洗濯・掃除などの役割、談話・編み物・オルガン・歌などのアクティビティー、散歩・買い物・旅行などの気晴らしなどを通して、何もすることがない日、にならないように支援している。	○	張り合いのある生活支援ができるように、今以上に職員の連携を図り、その方の持つ趣味などに取り組みたくなるような、声掛けや雰囲気作りに努めたい。
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力に応じて、支払いをされている。支払いに不安がある方にも、なるべくして頂けるように促し、ご自分で出来るように支援している。	○	お金を持つという事、使うという事が、本人にとってどういう事につながるのかきちんと認識し、どのような形であっても、できるだけ長く本人の力を発揮していただけるよう努めていきたい。
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候によって、天気の良い時には外出の声掛けをしている。防寒や日よけ、水分など体調を崩されないように気掛けている。　外出を好まれない方にも、その方の気分のかね合いを考えて声掛けさせて頂いている。無理なく、外へ出られ楽しんで頂けるように支援している。	○	お一人お一人の希望に応じて、もっとその場面や機会を増やしていく必要がある。
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人や家族と話し合う機会を作ったり、雑誌などを見られた際の話等から、一泊・日帰り旅行・花見などの計画をたてて外出支援をしている。	○	今後、思い出深い場所や馴染みのある場所へ行くことが出来るよう、日常的なお一人お一人へのアプローチが必要である。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、好きな時に連絡が取れるようにしている。家族に近況報告する際もご本人に換わり、なるべく話をして頂けるようにしている。手紙の時にも、代筆したり、書かれたものプラス解説をつける等工夫しながら、本人の想いが家族へ届くよう支援している。		
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来家された際には、馴染みの方たちとゆっくり過ごして頂けるよう空間作りに心掛けている。ご家族と普段から連絡をとるなどして、来家しやすい関係作りにも努めている。また、自由に出入り出来るよう、面会時間なども決めていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権を第一に尊重する事を常に念頭に置いて、仕事に従事している。日々の支援や、ベッド柵、センサー、夜間施錠などの目的を間違えないよう、常に新人職員を含め、職員間での認識の確認をすることで、人権意識を高めている。しかし、無意識での言葉や態度での抑制に関して、ゼロではない。	○	職員相互で、本人の気付かない拘束に気付けるように、勉強会を続け、それぞれの職員の意識を高めていく。
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けておらず、いつでも外出できるようになっている。 例え、入居者の安全管理のための施錠という職員側の大義名分があったとしても、短絡的判断であり、介護に従事する者として決して許される事ではない、と常に意識している。		
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	理念の一つであるアクト・オブ・バランスの観点から、入居者のプライバシーを最大限尊重し、職員間での申し送りや業務中の互いの声掛けでもって連携を保ち、入居者の安全を把握するように努めている。		
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の日常に必要なものは、居室において頂いている。症状の変化でやむをえない場合には、ご本人・家族等の承諾を頂いたうえで、一時預かりをしている。ご本人が必要な際には職員へ声を掛けて頂いたり、職員が察知しその都度提供している。	○	職員が業務上必要な刃物・洗剤などは、入居者が認知を誤って事故につながらないように管理しているが、業務に追われた際に時折、保管に怠りがみられる。気付いた時にはすぐに保管し、注意を呼び掛けているが、徹底してゆきたい。
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	未然に防ぐ、必要に応じたマニュアルを徹底している。 また、事故報告・ヒヤリハット報告から、次に同じ事が起きないように、具体的防止対策を話し合っている。	○	報告書・カンファレンスを全職員が共有し、意識を高め続ける必要がある。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応・応急手当の研修やＡＥＤの使い方の講習を受けている。夜間においては、マニュアルの徹底を図っている。	○	緊急時において、全ての職員が冷静に対応できるまでには至っていない。今後も、繰り返し勉強会・研修会が必要である。
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月15日を防災の日と定め、避難シュミレーションによる職員の意識を維持し、備品の確認・環境整備を行っている。また、年に二度、母体施設を中心とした各部署での連携の取り方の訓練と、ふぁみりえとして地域の皆さんと入居者が共に参加しての訓練を行っている。	○	今後も、防災への意識付けを徹底し、万一に備える。
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	理念やケア方針に則り、その方らしく生活して頂くがゆえに、転倒などのリスクがゼロとは言えないということを、ご家族へ説明し理解を頂いている。一方で、リスクがゼロに近づけるようにリスクマネジメントについて職員で話し合っている。また、認知症の進行や体調・状況によりその方の抱えるリスクが常に変化する事を職員が認識し、家族へもご理解頂き、ケアに当たっている。	○	起こりえるリスクに対し、常に予測をたてながら行動できるよう、職員間でも十分に情報交換を行い、どうすればリスクの軽減が図れるのかよりよい方法を模索していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常から入居者の皆さんのそばにいることで、いつもと違う雰囲気だと感じた段階、バイタルサイン数値として表れる前の段階で、体調の把握ができるように心掛けている。体調の変化などに疑いを持ち、結果的には何事もなくとも、情報の共有に努めている。	○	より多く接する機会を持てるように心掛け、職員の視点をフル活用していきたい。
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、薬の情報を一元管理し、ファイル資料としている。新入職員にもすぐに理解できるようにしている。		
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が3日以上ない場合には、看護師へ報告している。 便秘が続いたり、急性の便秘には病気のサインではないかと疑い、職員間で入居者の日常に変化が見られないか話し合っている。また、便秘後などで多量排便があった場合には、バイタルチェックをし、利用者の顔色・姿勢にも気を付けている。	○	最終的に便秘改善のために、薬に頼らざるを得ないケースが少なくはない。もっと食物繊維を含む食事、水分を摂取して頂けるよう支援し、できるだけ自然排便できるよう対応していく。また、日中活動の少ない方に関しても、本人に無理の無い範囲にて、見直しを図る。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではなく、入居者の生活スタイルに従って支援をしている。一日一度は職員による口腔ケアの介助を行っている。また、必要に応じてプロフェッショナルケアもおこなっている。		
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、福祉食にて対応している。水分量については、毎日記録をつけて摂取量を把握し、過多不足にならないように支援している。入居者の嗜好品である、お菓子等も考慮している。	○	現在の福祉食についての疑問も持ち上がっており、もっと入居者が好み、栄養バランスも良い食事はないか、検討している。
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルを徹底している。感染リスクの高い季節には感染対策委員を中心に、さらなる周知徹底を図り、予防に努めている。	○	スタッフが感染源となり入居者を脅かさないよう、健康管理・予防対策に今後も努めていく。
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食用アルコール・漂白剤を使い、調理器具・冷蔵庫・テーブルなど食事に関係するものには除菌をしている。食材については、検品時に鮮度のチェックをしている。	○	これまで無かったからと安心せず、今後も発生防止に努め知識を高めていく。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者と共に花を生け、玄関ホールに彩りを添えている。入居者の馴染みのものを、季節に合わせてホールに飾っている。最近催した行事などの写真を玄関先に貼り、写真による近況報告をしている。玄関は、暖簾を下げて家庭に訪問するような雰囲気が出るように工夫している。	○	玄関先の暖簾を入居者と共に作ったり、季節に合わせて取り換えたりして、入り口からの演出で迎えたい。
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の取り入れ具合や外からの不快な音に対しては、入居者に伺いながら調節している。足音・テレビ・ドア等の開閉音などの物音や声量については、認知症という病気の方々と共に生活している点から、特に気掛けている。	○	時に職員だけの時間が流れてしまい、入居者に不快感を与えている場面がある。認知症という病気についての理解の共有をもっと図ってゆきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が細かく分け、入居者の気分に合わせて、ご利用頂いている。	○	十分活用できていない空間を、入居者と共に考え活用してゆきたい。
85	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居心地の良い居室を作る上で、なるべく馴染みに囲まれて頂く事に力を入れている。個々人が馴染みに囲まれることで、ご本人が感じるメリット・デメリットもご家族と相談する事、また自宅とホームの両方で馴染みを保てる事に注意を払っている。	○	職員が新しい馴染みも把握し、増えすぎた物を減らしたり整理したりできる支援をしてゆき、さらに居心地の良い居室になるように工夫したい。
86	**○換気・空調の配慮** 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調・加湿に関しては、入居者が不快に感じることがないように注意している。夜間から早朝にかけての気温の変化が著しい時は、体調の悪化にもつながりやすいので、特に気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	**○身体機能を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備面だけではすべての入居者に適切な環境に対応できないので、職員の連携による対応に努めている。	○	職員で話し合いの中で、出来る工夫を考え増やしてゆきたい。
88	**○わかる力を活かした環境づくり** 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力が衰えてきたとしても、これまでの馴染みの環境・習慣・物をなるべく変化させずに行えるよう工夫してゆくことで、混乱や失敗がなく落ち着いて暮らせる環境作りに努めている。	○	個々の入居者の力にあった支援については、いつまでもその人らしく安心して生活が持続できるように、常に模索しながら支援してゆきたい。
89	**○建物の外周りや空間の活用** 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで食事をしたり、畑や樹木からの収穫、安心して散歩が出来る道、屋外で日向ぼっこやぼーっと出来るベンチなど、入居者の気分に合わせて、楽しんだりくつろいだり出来る環境を整えている。	○	各居室の小庭を、ご本人と話し合い嗜好にあった活用をして頂き、居室からの楽しみ・潤いにつなげてゆきたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム　ふぁみりえ

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、入居者やご家族と馴染みの関係をつくりながら、少しずつ信頼関係を結び”いつまでもその人らしく”人生を継続していただけるよう取り組んでいる。また、はやめ南人情ネットワークの活動や、併設の「きてみてテラス」を活用しカレーの店を出したり、赤ちゃん＆ママさん会を行ったりしている。また、地域の保育園や小・中学校との交流も根付き、運動会等へ招待されたり、ふぁみりえにおいて卒業記念植樹式を行ったり、活動の場を広げながら地域住民との交流に力を入れて取り組んでいる。職員が認知症ケアについて学ぶ機会がおおく、他ＧＨやさまざまな事業所との交流・連携を図っている。特に、Aユニットとしては、毎日11時より寄り合い（入居者の皆様・スタッフ共に）を行い、その日一日の予定（入浴や掃除・食事の事、外出予定等）をお伝えしたり、入居者の皆様のご希望をお聞きし、一日の流れを明確にしお過ごし頂いている。また、スタッフの入れ替わりがあった中、支援スタッフは着実に一歩ずつ入居者の方々との心の距離を縮め、ケアにあたらせていただいている。